

第 5 学 年

1 研究主題

「自分の思いを的確に話させるための書く活動の工夫」

—国語科「話すこと・聞くこと」における『書く活動』を取り入れた指導—

2 育てたい力

◆表現力

○自分の思いや考えを効果的に話すことができる力

◆コミュニケーション力

○相手の意図をつかみながら聞こうとする力

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕書く活動と話す活動をつなげる指導過程の工夫

○ 効果的に話す力を育てるために、学習のめあてをしっかりととらえさせたり、みんなと交流する前に話す練習を取り入れたりするなどの指導過程を工夫する

〔視点2〕自分の思いや考えを効果的に話す力をつける指導の工夫

- 効果的に話す力をつける「3色を生かした」学習プリントを作り、活用する
- めざす子供の姿をしっかりととらえ、話そうとする意欲を高める意図的な声がけによる認定評価を工夫する

第5学年 成果と課題

『的確に話す子』をめざした理由は3つある。一つは、国語科のねらいそのものからである。高学年では、「収集した知識や情報を関連付け…」「目的や意図に応じて…」「場に応じた…」「話し手の意図をとらえながら…」「自分の意見と比べるなど…」を的確に話すことの内容として学習指導要領国語科2内容A(1)で規定している。このよう話し方ができれば、これから学校のリーダーとして活躍していくときにも大いに役立つだろうというのが二つ目の理由である。そして3つ目は、言葉の行き違いから起きるトラブルが多いこと、心根はやさしいのに表現の仕方が下手な子が多いという子どもの姿からである。このような実態から、相手意識と目的意識をもって話す技術と態度を身につけさせることが、この子たちのより良い成長にとって必要だと考えた。また、的確に話させるために書く活動を取り入れたのは、昨年度までの本校の研究の成果を受けたこととこの子たちの話す技術の実態からである。

〔視点1〕書く活動と話す活動をつなげる指導過程の工夫

○ 学習のめあてをしっかりとらえさせる工夫

- ・本時のめあてを黒板に書いたり、掲示物をはったりするなどの視覚的な工夫は、子どもたちの活動を中心とする学習の中でとても効果的であった。子どもたちが様々な活動をする中で、いつでも振り返る場所ができるたからである。また、指導者としても、指導の大きな柱ができるので、ぶれることなくねらいに迫る授業ができた。
- ・本時のねらいを前時に子どもたちと立てることの有効性も検証できた。5年3組の研究授業では、前時において、本時にやるべきことの内容とめあてを子どもたちと考えまとめた。研究授業時には、授業以前に子どもたちが今日やるべきことをとらえており、さらに本時の中で確かめたので、全員がめあてをしっかりとらえて活動できた。

○ 指導過程を工夫する

- ・話す内容を整理するために書く活動を取り入れることは有効であった。「導入で自分の考えを書き、展開で話させる指導」や「展開で書きながら話させる指導」、「まとめて活動の評価を書いて話させる指導」を実践した。その中で、本時の指導のねらいをしっかりとらえ、それに合わせて上記の指導過程を工夫することが大切であることをとらえることができた。
- ・また、1単位時間だけでなく、前時で書いたことを次時で生かすなど、単元全体において書く活動と話す活動をつなげていくことが子どもたちの学びをより確かにしていくことを授業の中で実感することができた。

〔視点2〕自分の思いや考えを効果的に話す力をつける指導の工夫

○ 学習プリントの活用

- ・自分の考えをまとめるだけではなく、友達の考えを聞き、グループの結論を導き出すためには、1枚物のプリントに限らず、カードに考えを書かせたり、模造紙を活用して動きのある表にしたりするなどの工夫が効果的であることがわかった。
- ・さらに、話し合う能力を確実に身につけさせるにはプリントの内容とともに、どのような活動形態で話させるか考える必要がある。技術を身につけさせるためには、ペアや少人数グループ。自分の思いを伝え、聞く体験を積ませるには5～6人グループ。よりの確な話し方を考えさせ、身につけさせるには全体での発表を使った一斉授業。これら3つの形態について授業を通して確かめることができた。

○ 意図的な声がけによる認定評価の工夫

- ・グループで活動している時には、ねらいをもとにして、「こんなところがいいよ」「ここはこうしたほうが今日のめあてに近づくのでは」などの声掛けをすることで、本時で身につけさせたい力をより確実に獲得させることができた。

《課題》

- 学習のねらいとともに、育てたい子どもの姿を具体的に描いておくことが、グループ活動を中心とした学習ではより大切になる。今後の指導で生かしていきたい。
- 本研究で得られたコミュニケーション力を伸ばす指導法を、他の教科・領域で生かしていきたい。